

## ● 日本の主な火山活動

口永良部島の新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていない。火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は12月下旬に一時的にやや多くなった。地殻変動観測では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められない。

5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があり、火砕流に警戒が必要である。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。新岳火口から半径1.4海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがあるので、噴火に警戒が必要である。

西之島では、海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、2013年11月以降活発な噴火活動が確認されている。西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒が必要である。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が続いている。

遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは100m以下で経過した。また、1月以降確認している大穴火口外の噴気が引き続きみられている。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が続いている。東京工業大学によると北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも火山活動の活発化を示す変化が続いている。地殻変動観測によると、2014年4月頃から湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、2015年4月頃より鈍化している。

湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていない。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は引き続き多い状態が続いている。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量もやや多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや活発な状態で経過している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

御嶽山では、火山活動は低下した状態が続き、2014年10月以降噴火が発生していないことから、2014年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。一方、火口列からの噴煙活動や、地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性がある。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山の中岳第一火口では、7日08時11分にごく小規模な噴火が発生した。また、25日04時21分頃に空振を伴う振幅のやや大きな火山性微動が発生した。火山性微動発生時に火口周辺は雲に覆われていたため噴煙などの状況は確認できていない。

4日に南阿蘇村中松で震度1を観測する火山性地震が発生した。火山性微動の振幅は消長を繰り返しながら概ね小さな状態で経過した。孤立型微動は概ね少ない状態で経過したが、時々多くなった。

中岳第一火口では、2014年11月以降、活発な火山活動が続いてきたことから、当分の間は火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要

である。

霧島山（新燃岳）付近を震源とする火山性地震が時々発生した。

GNSS 連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞している。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられていたが、10 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

桜島の昭和火口では、9 月 17 日以降爆発的噴火は発生しておらず、9 月 29 日以降は、南岳山頂火口を含めて小規模な噴火も観測されていない。火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されていない。山体の膨張を示す地殻変動はみられていない。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない状態であった。

火山活動は低下しているが、これまでも噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると考えられる。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島の御岳火口では、噴火は発生しなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるため、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

**表 1 12 月 31 日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況  
（※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中）**

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	入山危険	西之島※
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、桜島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

\*噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図1 12月31日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

## 各火山の12月の活動解説

### 【北海道地方】

#### 雌阿寒岳めあかんだけ [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

火山活動は概ね静穏に経過している。直ちに噴火に至る兆候は認められないが、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙量は、2015年6月頃以降やや多い状態が続いている。また、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全威力<sup>1)</sup>の変化は継続している。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 十勝岳とちかだけ [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周

辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 樽前山たるまえん [噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の